

令和8年度第1回一関市社会教育委員会議 会議録

- 1 会 議 名 令和8年度第1回一関市社会教育委員会議
- 2 開催日時 令和8年7月24日（金）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 一関市役所花泉支所 4階 東大会議室
- 4 出席者
 - (1) 委 員 松田薫委員、今川晋委員、三浦幸哉委員、鈴木道明委員、須藤光子委員、二階堂美恵委員、小山眞正委員、佐藤仁委員、勝浦一輝委員、菅原泰子委員、佐々木美千代委員、千葉喜代一委員、金森勝利委員、白石理恵委員、館澤敏子委員、小野寺憲之委員
 - ※欠席者 青柳さつき委員、佐藤美枝委員、木村静恵委員、伊藤ゆき委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、松田京士まちづくり推進部長、藤倉忠光一関図書館長、岩渕真樹文化財課長兼骨寺荘園室長、橋本美子一関市博物館副館長兼庶務係長、平石剛まちづくり推進部次長兼スポーツ振興課長・社会教育主事、小野寺和宏いきがづくり課長、佐藤康隆いきがづくり課市民センター係長・社会教育主事、八重樫理央いきがづくり課主任主事、松館昭いきがづくり課主任
- 5 議 題
 - ① 社会教育委員について
 - ② 議長及び副議長の選任について
 - ③ 意見交換
 - (1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）
 - ④ その他
 - (1) 第72回岩手県公民館大会・令和8年度岩手県社会教育委員研究大会（一関・平泉地区大会）の開催について
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 なし
- 8 教育長挨拶

本日は御多用のところ、令和8年度第1回一関市社会教育委員会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、先ほど委嘱状を交付させていただきました。令和10年6月30日までの2年間、一関市の社会教育の推進にお力添えをどうぞよろしくお願いいたします。

小学校、中学校、高校それぞれの校長先生方にも委員として御出席いただいております。

すが、小学校、中学校の児童生徒は6,085名となっております。この暑さの中、今週22日から来週27日にかけて、各学校では1学期の終業式を迎えようとしております。皆様のお力添えをいただきまして、命に関わるような大きな事故もなく、6,085名の児童生徒たちが無事に夏休みを迎えられればと願っております。引き続き、現代的な課題である熱中症対策やツキノワグマの出没への対応などについて、学校や御家庭の御協力をいただきながら、事故のないよう取り組んでまいりたいと考えております。

さて、本年度の児童生徒数は6,085名と申し上げましたが、昨年度と比べて約340人減少しており、毎年減少が続いております。一関市全体では人口減少や少子高齢化が大きな課題となっております。また、社会全体ではデジタル技術の急速な発展や、価値観の多様化など大きな変化の中にあります。人口減少、デジタル化、社会の変化といった話題は、報道などでも日々取り上げられているところであります。

このような中、子どもたちに限らず、市民の皆様が将来を見通すことが難しい時代を切り拓いていくためには、生涯にわたって学び続け、自ら考え行動する力を身に付けることが必要であると考えております。

一関市では昨年度、一関市の総合計画の改定に伴い、一関市教育委員会が所管する「一関市教育振興基本計画」についても改定を行いました。その基本目標を「郷土を愛し、自ら学び、未来を拓く一関の人づくり」としております。郷土一関には素晴らしい自然や歴史があります。それらを継承しながら、市民の皆様や子どもたちがそれぞれの学びを通して、自分の住んでいる地域に愛着を持ち、自分自身や地域をどのように発展させていくかを考えながら未来を切り拓いていく、そのような人材を育成していくことが、この時代にふさわしい教育の目標であると考えております。

社会教育につきましては、基本方向として「ともに学び、まちと地域をつくるひとづくり」を掲げ、この教育振興基本計画の中に位置付けております。市民の皆様お一人お一人が、生涯学習をはじめとする学びを通じて自己実現を図り、その成果を地域活動やまちづくりに生かしながら、人と人とのつながりを深め、一関市が持続可能な社会となるよう取り組んでまいりたいと考えております。

具体的には、それぞれの市民センター、図書館、博物館などを拠点とした学習活動や文化活動、地域学校協働活動、教育振興運動などを通して、市民の皆様が世代を超えて学び合い、支え合う環境の充実を図ってまいりたいと考えております。これらの取組が、先ほど申し上げた基本目標である「一関の人づくり」の実現につながるものと考えております。

本日の会議では、教育委員会の事務事業に関する点検・評価について御説明いたします。事業終了後には内部評価を実施しておりますが、より透明性と客観性を確保するた

め、外部の方々にも御参加いただき検討を行っております。本日はその中から、社会教育に関わる内容について御説明をさせていただきます。

また、来週31日に一関市を会場として開催を予定しております「第72回岩手県公民館大会・令和8年度岩手県社会教育委員研究大会」についても御案内させていただきます。

委員の皆様には、それぞれの立場や専門的見地から忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げます。今年度の社会教育事業のさらなる充実につなげてまいりたいと考えております。

以上、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

9 議題

① 社会教育委員について

資料1に基づき事務局から説明を行った。質疑応答なし。

② 議長及び副議長の選任について

互選の結果、千葉喜代一委員が議長に、白石理恵委員が副議長に選出された。

③ 意見交換

(1) 教育委員会の事務事業等に関する点検評価について（社会教育関係）

資料2に基づき事務局から説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 英語の森キャンプ事業について伺う。中学生の募集において、前回参加した生徒が2回目も参加できる仕組みになっているのか。また、令和7年度は小学5年生・6年生が対象であったが、5年生で参加した児童が6年生になった際に再度応募できるのか。

事務局 英語の森キャンプ事業については、小学生については、5年生で参加した児童は6年生になっても参加できる。中学生については、中学2年生を対象としており、中学校の期間は1回だけとなる。小学生の時に、英語の森キャンプに参加した児童が、中学生になっても多数参加していただいているという実績もあるので、小学校で興味を持っていただいて、中学校でより深く学んでいただくというような流れができていると考えている。

委員 本校では、地域学校協働活動事業の学校支援活動及び放課後子ども教室事業を実施していただいております、地域の方々に参画や協力をいただいていることを大変ありがたく思っている。地域学校協働活動事業については、国庫補助事業で実施されているということで、例えば、学校支援事業の大東地域コーディネーターは学校5校に対して1人で担当しており、学校との調整などが難しいこともあるのではないかと考えている。地域コーディネーターの人数

を増やす予算を拡充する予定はあるのか。大東地域全体の人や物などを理解していないと地域コーディネーターの役割を担うのは大変だと思うが、大東地域について地域コーディネーターを増やす予定はあるか。

また、放課後子ども教室の実施について、本校では今年度は5月のゴールデンウィーク明けからの実施であった。予算の関係なのかと思うが、4月から実施する予定はあるのか。

事務局 地域学校協働活動事業の国庫補助の関係については、国と県から合わせて3分の2の補助をいただいて事業を実施している。最近は上限額が定められており、実質的には3分の2の補助ではなく、一関市が3分の1以上の負担をしている状況にある。

地域コーディネーターについては、確かに大東地域は学校数が多い状況で、生涯学習支援員が1人で担っている状況であり、いきがづくり課及び大東支所地域振興課でも問題意識を持っている。

一番の課題は、地域を理解している適任者の確保が難しいことであり、引き続き人材確保に努め、活動を充実させるための体制整備を図っていきたい。

放課後子ども教室の開始時期については、地域によって4月から開始しているところもある。準備や人員の確保の状況を確認しながら、4月から開始できるのかを検討していきたい。

委員 ありがとうございます。よろしくお願いします。

もう一つ、教育振興運動について伺う。先日、大東地域の推進会議が行われ、来年度から一関市全体として教育振興運動を進めていくと伺った。これまでは事業内容に応じて予算が配分されていたが、来年度以降については、各地区均等に配分するという話があった。大東地域では、学校では活動できないサマーキャンプなどの体験活動が実施されている。地域、家庭で子どもたちの体験活動を重視した活動を進めていくのであれば、予算を配分していただければありがたい。会議では、予算が減るので何か事業を縮小していかなければいけないのではないかという話もあり、各市民センターで様々な事業を実施されていることから、それぞれの地区だけでなく、大東地域の他地区の小学生全てに周知広報してはどうかという話をさせていただいた。市民センター中心の活動をするための御配慮御検討もお願いしたい。

事務局 教育振興運動については、市町村合併前からの取組について調整がつかず、補助金に地域差があったことから、一関市全体で統一的な取組が必要ではないかという流れになった。例えば、大東地域では毎年教育講演会を

実施しており、こういったものを一関市全体に広げてより多くの方に講演会を聞いてもらうなど、効果的な予算の使い方も必要ではないかと、見直しを進めていったところである。大東地域の体験活動などについては、市民センターの事業が補完するような形で、現在の取組の水準を維持できるような工夫をしながら進めていきたいと考えている。

委員 私は、いわいの里ガイドの会で、骨寺地区のガイド案内をしている。去年から今年にかけて、お客様から「熊は大丈夫か」という問い合わせが増えていく。また、骨寺地区では人口が非常に減っていて、様々な活動をやりたいが人材不足で苦勞している。骨寺を今後維持していくためには、一関市や関係団体がどのように関わっていくかが非常に重要であり、地域の方々は危機感を持っている。

事務局 実情に即した貴重な御意見をいただき感謝申し上げます。一関市としてもこれまで地元の協議会と連携して様々な取組を進めてきたところであるが、これからも一層取り組んでいきたいと思っている。

なお、今年は骨寺村荘園遺跡が荘園となって900年を迎える節目であることから、講演会やツアー、各種PRなどの取組を実施しているところである。

委員 3点質問がある。1点目は、事務事業名No.25の市民センター事業の共通テーマ「郷土愛の醸成による次世代の人材育成」について、非常に良いなと思っている。実際に今年度はどのようなところに力を入れていくのか。

2点目は、No.32の図書館図書資料整備事業について、主な活動の中に、老朽化した資料の精選・整理とある。この資料の整理や廃棄は、どのように行っているのか。

3点目は、No.39の骨寺村荘園遺跡世界遺産登録推進事業について、事業の方向性は「見直し」としているが、今までどのように進めてきて、今後どのように展開していくのかをお聞きしたい。

事務局 市民センターの共通テーマについては、毎年度1つのテーマを設定して、それに応じた取組を各市民センターで実施するものである。令和8年度は「郷土愛の醸成による次世代の人材育成」をテーマとしている。人材は家庭や学校だけではなく、地域全体で育てていくということが大事であると考えている。

今年度のテーマを設定するに当たり、各市民センターや社会教育士の方々から、地域の歴史や文化に触れる学びや体験を通して郷土への理解を深め、郷土愛を基盤とした人材育成が必要ではないかという意見が出された。

各市民センターで実施されている各種事業を基本としながら、新たな取組も実施していく。例えば、地域を探究する講座、農業や伝統芸能などの体験活動、地域の魅力を発見する事業、高齢者から昔遊びや歴史や文化を学ぶ講座、子どもと高齢者が交流する事業などを重点的に取り組むことを考えている。

事務局 図書館図書資料整備事業の老朽化した資料の精選・整理についてだが、まず図書館の仕事として、本の貸出しや返却、本の購入をするほかに、本の保存という大事な仕事がある。一番大事に保存しなければならないのは、一関の郷土の資料で、一関の成り立ちや文化が書いてある本であり、永年的に保存する。老朽化した資料の精選・整理では、例えば、旅の本などは3年から4年で情報が古くなるため、古くなった本は登録を解除し、廃棄若しくはリサイクルに回すというものが老朽化した資料の精選である。また、ごく一部ではあるが、汚れや破損、変色が生じた資料については、買い替えて整理していくといったことが、老朽化した資料の精選・整理である。

教育長 骨寺村荘園遺跡世界遺産拡張登録推進事業の見直しなどの経緯について説明する。まず、これまでの一関市の教育振興基本計画は平成28年から令和7年度までの計画で作られていた。その当時は、骨寺村荘園遺跡は世界遺産の拡張登録の一つの構成資産になる見込みで作成しており、令和7年度までの計画では、主となる目的が世界遺産の拡張登録を目指すということで、国に重要文化的景観を申請し、それが認められ、様々な整備をしてきたところである。令和5年8月に拡張登録については、柳之御所遺跡のみ拡張登録資産とされ、その他の一関市の骨寺村荘園遺跡、奥州市の資産については、拡張登録を見直すこととなった経緯がある。昨年度までの計画では、あくまでも世界遺産登録拡張を目指すということとしており、今年度からの計画では拡張登録のみではなく、骨寺村の価値は変わらないことから、重要文化的景観の計画そのものを地元の方と協議しながら、持続可能な景観を守っていくことにシフトしている。世界遺産拡張登録については、今後も発掘調査などをしながら、新たな物証などが確認された場合には、拡張登録を目指していく。端的に言えば、拡張登録のみを目指すところから、骨寺の価値を新たに再確認して、先ほど委員の方からもあったが、持続可能な取組を、地域づくりも含めて見直しているところである。

委員 地域コーディネーターという方たちはどのように選ばれて、どのような仕事をしているのか教えていただきたい。

事務局 学校支援活動事業は、例えば、学校での読み聞かせボランティアや家庭科授業の裁縫を教えてくれるボランティアが地域にいないかなど、学校側のニーズをとらえ、地域コーディネーターが地域で出来る方がいないかを探すという学校と地域のつなぎ役である。

地域コーディネーターの募集の仕方については、学校から学校支援事業を実施したいという希望があれば、学校や市民センターなどから適任者の情報をいただき、地域コーディネーターを選任して、一関市が委嘱している。先ほど委員からも御意見があったが、地域の事をよく理解している方が適任ということで、地域コーディネーターの成り手も限られている状況である。

④ その他

- (1) 第72回岩手県公民館大会・令和8年度岩手県社会教育委員研究大会（一関・平泉地区大会）の開催について

資料3に基づき事務局から説明を行った。質疑応答なし。

10 担当課 まちづくり推進部いきがづくり課